



平成 21 年 10 月 28 日

各 位

会社名 富士通コンポーネント株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 松村 信威  
 (コード番号 6719 東証第 2 部)  
 問合せ先 常務取締役 望月 晴夫  
 (TEL 03-5449-7000)

当社の親会社 富士通株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 間塚 道義  
 (コード番号 6702 東証、大証、名証、各市場 1 部)

## 平成 22 年 3 月期 特別損失の計上(個別)及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、子会社株式会社高見澤電機製作所について、平成 21 年 9 月末時点の財政状態を勘案し、関係会社株式評価損を計上することとし、また、最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 7 月 30 日に公表しました平成 22 年 3 月期(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)の業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

## 記

## 1. 特別損失の内容

子会社株式会社高見澤電機製作所の関係会社株式評価損 68 百万円

なお、関係会社株式評価損につきましては、連結業績には影響ありません。また、前回公表の業績予想に織り込み済みであります。

## 2. 連結業績予想の修正

## (1) 第 2 四半期累計期間の業績予想の修正(平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期 純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	15,500	△2,100	△2,300	△2,300	△33,337.20
今回修正予想 (B)	15,951	△1,797	△2,004	△2,053	△29,767.32
増減額 (B - A)	451	303	296	247	—
増減率	2.9	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	24,837	△94	△245	△266	△3,850.82

## (2) 通期の業績予想の修正(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	34,900	△2,100	△2,400	△2,400	△34,786.64
今回修正予想 (B)	34,500	△2,100	△2,400	△2,400	△34,786.64
増減額 (B - A)	△400	—	—	—	—
増減率	△1.1	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	42,526	△2,291	△2,697	△4,782	△69,207.75

### 3. 個別業績予想の修正

#### (1) 第2四半期累計期間の業績予想の修正（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期 純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	13,600	△1,200	△1,200	△1,300	△18,842.76
今回修正予想 (B)	13,779	△1,074	△1,142	△1,263	△18,311.02
増減額 (B-A)	179	126	58	37	—
増減率	1.3	—	—	—	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	21,542	△324	△240	△299	△4,332.62

#### (2) 通期の業績予想の修正（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	30,500	△1,200	△1,200	△2,100	△30,438.31
今回修正予想 (B)	29,900	△1,500	△1,500	△2,100	△30,438.31
増減額 (B-A)	△600	△300	△300	—	—
増減率	△2.0	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成21年3月期)	36,511	△1,423	△1,341	△8,881	△128,540.83

### 3. 修正の理由

#### (1) 連結業績

当第2四半期連結累計期間は、景気対策や在庫調整の進展により、最悪期を脱しつつあるものの、依然として本格的な回復への道筋が見えない厳しい状態が続いております。当社グループが属する電子部品業界におきましても、お客様における在庫調整が進んだのに加え、一連の景気対策効果により車載用で所要増がみられるものの、産業機器用の需要が低迷しており、依然として厳しい環境が続いております。

このような厳しい経営環境のなか、当社グループはリレー事業体制の再編や徹底的なコスト削減を進めた結果、上記のとおり前回発表の業績予想値を上回る見込みとなりました。尚、通期につきましては、今後の経済情勢や市場動向が不透明なことから売上高のみ変更しております。

#### (2) 個別業績

当第2四半期連結累計期間につきましては、徹底的なコスト削減を進めた結果、上記のとおり前回発表の業績予想値を上回る見込みとなりました。

通期につきましては、国内の産業機器市場の低迷による売上高の減少により、上記のとおり前回発表の業績予想を下回る見込みとなりました。

なお、「1. 特別損失の内容」にありますとおり、連結子会社である株式会社高見澤電機製作所の関係会社株式評価損を特別損失として第2四半期に68百万円を計上し、更に通期において138百万円の発生を見込んでおりますが、前回公表の業績予想に織り込み済みであります。

以上